

10.九州(地域別調査機関:(財)九州経済調査協会)

(-:回答が存在しない、 :主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・先月から佐賀城下ひなまつりがあり、商店街にも沢山の客が訪れ、活気づいている。
		商店街(代表者)	販売量の動き	・来客数の動きが非常に活発になっている。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・1、2月は天候不順で来客数が前年割れであったが、3月中盤から持ち直している。
		百貨店(営業担当)	競争相手の様子	・福岡県天神地区に百貨店がオープンし、天神地区(特にきらめき通り)は大変にぎわっている。
		スーパー(店長)	単価の動き	・今年に入り、高級ハンドバック、時計の売行きが非常に良く、客単価が上がっている。日用品についても、食品、惣菜において価格一辺倒から良質志向となり、いいもの、付加価値があるものが売れる傾向にある。
		スーパー(企画担当)	販売量の動き	・鳥インフルエンザによる鶏肉の敬遠や、店舗改装に伴う休業による減収要因はあるものの、ひな祭りやお彼岸関連商材に加え、春野菜、いちご等の季節商材の動きが好調である。
		スーパー(経理担当)	販売量の動き	・今年に入り、米国でのBSE、鳥インフルエンザ等の問題があったが、食品全体としては堅調に推移している。競合出店地域を除き、売上は増加傾向にある。
		コンビニ(エリア担当)	販売量の動き	・春休みに入り、天候も良くなったことから学生を中心に客足が増加している。特に春夏物商品の飲料、アイス等の売上が前年を上回っている。
		コンビニ(店長)	お客様の様子	・3月の中旬から、客数、売上が少々伸びている。客の雰囲気は良くなっていることが、客の表情からもわかる。長年の商売の経験から言うと、少しずつ上向きになっている。
		衣料品専門店(経営者)	単価の動き	・消費者の安定した収入が、地域の景気をおる程度良くしており、この状況は2、3か月前とそう変わらない。個性を出すために、色違いでジャケットを3色買う例もあり、客単価からも景気は良くなっている。
		乗用車販売店(従業員)	競争相手の様子	・価格競争がどのディーラーも激しい。客もいろいろなディーラーを回り、価格競争をさせている。
		乗用車販売店(管理担当)	販売量の動き	・新車販売等について少し良くなっているが、客は購入に慎重である。全国的には景気は良くなっていると言われるが、まだまだ景気は冷え切っている。
		その他専門店[ガソリンスタンド](統括)	販売量の動き	・ガソリンの販売量は、値上がり状況にもかかわらず昨年と変わらない。
		高級レストラン(経営者)	来客数の動き	・客単価はあまり良くないが、客数がまあまあ伸びてきた。ここ数年少なかった歓送迎会が増えた。
		高級レストラン(専務)	来客数の動き	・鹿児島は新幹線効果で交流人口が多くなっている。天文館まで熊本、福岡からの客が結構来ているようである。
		その他飲食[居酒屋](店長)	来客数の動き	・焼酎本物の時代が到来し、県外客が一気に増えた。
		旅行代理店(業務担当)	販売量の動き	・前年はSARS、テロの影響で海外旅行が壊滅的だったため、前年比は上回っているが、02年度の実績には戻っていない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・日中も夜も客の乗車の回数が増え、全体的に良くなっている。特に夜の客が増えたようである。
		住宅販売会社(従業員)	販売量の動き	・低価格志向が依然として続いているようだが、契約数は持ち直している。
	変わらない	商店街(組合職員)	来客数の動き	・市内全域でおよそ3週間の観光イベントが行われた。市外、県外からの来街者も増加し、大変にぎわいであったが、売上にはつながっていない。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・商店街で春のセールをしたが、来街客数、来店客数とも昨年よりかなり少なかった。
		一般小売店[青果](店長)	競争相手の様子	・当店の立地する商業地域の周りに大型店舗の競合店が続々と進出している。大型店舗はいいようであるが、当地域の集客はかなり減った。

百貨店（営業担当）	お客様の様子	・九州新幹線の一部開通の影響で、食品売場の特産品、特産菓子は好調であるが、生鮮品は依然伸び悩んでいる。新幹線開業による熊本、福岡への顧客の流出もある。顧客の流出抑制のため、婦人服、雑貨売場のリニューアルを実施し、来店促進を図っている。また、高校の制服の受注についても、従来以上に買い控え傾向が強まり、受注数量の減少がみられる。
百貨店（売場担当）	販売量の動き	・福岡市、北九州市で大型百貨店がオープンしたことから競争が激化しており、依然として厳しい状況が続いている。
スーパー（経営者）	販売量の動き	・総額表示、鳥インフルエンザ等の問題から、買上点数を控える傾向がある。
スーパー（店長）	販売量の動き	・いささか上向きになっていたが、総額表示を少し前倒しで実施したところ、売上の伸びが数パーセント下落している。
スーパー（店長）	販売量の動き	・客は必需品だけを買ひ、し好品、贅沢品については、ポイントがつく、サービスがつくといったオプションがないと買わない。その結果、販売量が減少している。
スーパー（店長）	販売量の動き	・価格を総額表示に変えたため、販売量が伸びない。
スーパー（店長）	販売量の動き	・食品は先月と変わらず、前年比94%で推移している。BSEの問題で肉の売上が一番悪いが、野菜は相場が上がったため、昨年より上向きである。春物衣料はほとんど売れず、2、3月と売行きが鈍い。
スーパー（店長）	販売量の動き	・1人当たりの買上点数と買上単価が落ちており、不要なものは購入しない。大容量パックのお買得商品よりも、割高ではあるが少量パックが売れている。
スーパー（店長）	単価の動き	・相変わらず一品単価の回復が望めていない。
スーパー（総務担当）	それ以外	・当社では3月中旬から総額表示方式に取り組んでいるが、客の戸惑いがかかりみられる。
スーパー（総務担当）	単価の動き	・来店客数は昨年並に戻りつつあるが、単価が低いいため売上が伸びてこない。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・依然、酒類新規取扱店舗は増加しているが、売上の伸びは今一つである。客単価の上昇にはつなげていない。
コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・量販店向けは前年比4%減、コンビニエンスストア向けは同8%減、ローカルスーパー向けは同5%減となり、どのチェーンでも前年比減となっている。
衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・今月オープンした大型百貨店に入っている店舗では、かなりの集客があった。しかし、客はあるところで買物をしたら他では買わないという傾向があり、全体としてはほぼ変わらない。
衣料品専門店（総務担当）	販売量の動き	・来客数は前年度並みであるが、売上数量が減少している。
家電量販店（経営者）	販売量の動き	・一部ゆとりのある客の購入はあるものの、全体を見渡すと、一般の客の買い控えが依然として目につく。
自動車備品販売店（従業員）	販売量の動き	・高額商品が特に売れない。土日の来店客数は多いが、購買までに至らない。
その他専門店【医薬品】（従業員）	単価の動き	・客数はプラス傾向にあるが、ドラッグストア間の競争は激しく、客単価はなかなか上がらない。
スナック（経営者）	競争相手の様子	・同業者間の話では、店の売上が落ちているので、経費削減のため、従業員の人数を減らしたり、忙しい時だけ一時的に人材派遣会社を利用する等の対応をしている。また料飲組合の話では、閉店する店も最近増えたそう。
観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・婚礼等の個人催事が前年に比べてかなり減少している。宿泊・レストランは前年並みである。
都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・個人客と比べ、法人需要が低調である。
タクシー運転手	お客様の様子	・今月は、前半はまあまあ良かったが、後半は急に昼の動きが悪くなった。

		通信会社（業務担当）	販売量の動き	・卒業シーズンに入り、例年であれば携帯電話は年間の最需要期となるが、新規契約はある程度水準で推移しているものの、機種取替えが大きく減少している。高機能商品が次々と発売されるものの、相変わらず高値販売で、低価格商品の品ぞろえが少ないためである。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・観光施設については、九州新幹線開業の効果がみられ、前年比ほぼ10%増である。ゴルフ場については、土日はそこそこの稼働率であったが、昨年より多少下回り、前と変わらない状況である。
		競馬場（職員）	販売量の動き	・前年に比べ、下げ幅は縮小しているものの、縮小傾向には変わりがない。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・3、4月は客が少しずつ明るく動いてくる時期であるにもかかわらず、販売量は3か月前とあまり変わらない。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・今月に入っても客の土地購入意欲に変化は見られない。まだまだ住宅に関する環境は厳しい。
やや悪くなっている		商店街（代表者）	販売量の動き	・一部のショッピングセンターを除き、買い回りの客がなかなか流れてこない。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・高額商品の売行きが悪い。また、単品で購入することから、客単価も低い。
		一般小売店〔茶〕（店長）	来客数の動き	・総体的には来店客数の減少が大きく影響しているが、客単価、販売量も減少している。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・福岡市の百貨店の来店客数が全体的に落ち込んでいる。当社は新規出店効果もあり入店客数は伸びているものの、他社は落ち込みが激しい。他社の落ち込み分を弊社がすべて吸収しているわけではないことから、天神地区百貨店への来客数が落ちている。
		百貨店（業務担当）	来客数の動き	・来店する客は、前年に比べて弱い動きである。また、催し等の打ち出しもにぎわいが続かず、購買も単品買いが目立つ。
		家電量販店（店員）	お客様の様子	・子どもの一人暮らしのために電気製品を買いに来るが、節約ムードがひしひしと感じられる。親子ともそれが見受けられる
		住関連専門店（経営者）	単価の動き	・春のプライダル商品の動きが特に悪い。キズ物専門店等に客が流れているようだ。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・3月は歓送迎会シーズンで例年は予約が多いが、今年は少ない。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・建売住宅のモデルハウスの来客数が3月に入っても伸びない。客の予算も昨年より厳しく、景気はあまり良くない。
悪くなっている		商店街（代表者）	来客数の動き	・商圏内に大型百貨店が開業し、客の流れが変わってしまった。商店街への客の流れが減り、商店街の回遊がなくなった。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・粗品配布等の売出イベントには多数動員がかかっているが、それが購買と全く結び付いていない。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・前年比93%くらいで推移している。今月上旬は福岡市での百貨店オープンや天候不順が影響し、衣料品を中心に不調であった。中旬はやや上向いたが、下旬から急激に下落したため、総額表示に伴う影響が懸念されるところである。春休みに入り、福岡市への流出もみられる。売上は厳しい。
		百貨店（営業企画担当）	来客数の動き	・昨年9月の大型商業施設オープンに続き、3月にアウトレットモールがオープンした。福岡市でも百貨店がオープンし、競争が激化している。来店客数は昨年比の80%前半で推移しており、厳しい状況が続いている。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・今月の売上はピーク時に匹敵する額であった。当社のオフィス家具部門は官公庁の年度末である3月が必要期であるが、年々需要期の波がなくなり、毎年の売上は期待できない状況にある。その分民間の商業施設への需要が活発であった。デフレによる単価下落も一段落し、反動として高額商品の動きが良くなっている。
		金属製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・年度末を迎えているが、前期の受注残を多く持ち込む状況となっている。

	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・確かに受注量は多くなっているが、コストの方は厳しい。	
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・仕事量は非常に安定しており、新規の取引先も増えている。新規事業も競争は激しいが手ごたえがある。	
	建設業（総務担当）	それ以外	・銀行からの借入が以前に比べて楽になった。融資の基準が緩和された様子である。また、他の銀行からも借りてほしいと言われている。	
	通信業（経理担当）	それ以外	・昨年に比べて好調であり、新規採用も増えているようである。売上は前年を上回ったが利益は厳しく、競合もあるため減少している。来期は実際に合併商談もあり、増収が見込まれる。	
変わらない	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・鳥インフルエンザ等の影響はあるが、その分他の食肉に動きがあるため、全体的には変わらない。	
	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者間ではプレミアム商品がいくらか動いている。しかし、百貨店、量販店向けの定番商品は、以前より動きが鈍くなっているようである。	
	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・新聞折込広告については、折込枚数は先月に比べてやや多くなったが、サイズが小型化したため、売上は減少した。北九州地区は、他地区と比べて元気がない。	
	経営コンサルタント	取引先の様子	・酒類業界で今月に入って卸業が1店、小売業が1店閉鎖した。原因は売上と資金繰りの悪化であり、悪い方向に向かっている。	
	その他サービス業〔物品リース〕（役員）	受注量や販売量の動き	・九州新幹線が部分開業したが、熊本では八代、水俣とも影響はみられない。	
やや悪くなっている	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・決算の月にもかかわらず、商品の荷動きが全く良くない。メーカーから商品が入ってくるものの、倉庫から出て行くことがなく、たまっている。	
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・貸出の減少が続いている。	
悪くなっている	輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・資材関係、特に鋼材関係、形鋼、ステンレス、平板の価格が倍くらいまで値上がりしており、小型船の発注と注文がほとんどない。	
雇用関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・年度末に向かい事務量などが増えた影響なのか、労働者の残業時間及び求人数が増えている。また、派遣法の改正もあり、多種多様な問い合わせが増えている。
		求人情報誌製作会社（総務担当）	求人数の動き	・求人情報企業の掲載数が上向き傾向にある。雇用形態はパート・アルバイトが特に増加している。正社員に関しては、高いスペックを要求する企業が増加している。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・昨年11月より求職者数が減少に転じており、1月は前年比12.6%減、2月同6.4%減となっている。また事業主都合離職者についても同30.8%減となっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・デジタルカメラ、半導体生産等の好調な製造業を始め、ほとんどの主要産業からの新規求人数が前年同月比で増加を続けている。
変わらない	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・年度末の派遣オーダーは、今年のピーク程の繁忙さが無い。	
	求人情報誌製作会社（編集者）	雇用形態の様子	・昨年に比較して求人数は伸びているが景気が良くなっているという実感は伴わない。最近では中小の製造業において、アウトソーシングを利用する企業が増えている。アウトソーシング業間の人材確保のための競争が激化し、求人が増加するという傾向がつかえる。	
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・派遣請負事業からの求人が引き続き増加傾向にあり、メーカー等が派遣請負を利用する運営方針に変化がみられない。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・増加傾向にあった新規求人数が鈍化している。	
やや悪くなっている	-	-	-	

悪く なっている	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・ 3月末で終了の派遣案件はかなり多いが、4月新規導入の案件はあまり多くない。事務所の引上げのほか、合併等で人がいらなくなっていることが原因である。
-------------	----------------	--------	--